

21 環境教育の充実（小・中）

ー 環境の保全やよりよい環境の創造のために、主体的に行動する能力、態度の育成 ー



学校教育における環境教育では、環境教育のねらいである「持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成」を踏まえ、地球的視野で環境を大切に、環境の保全やよりよい環境の創造のために「自ら課題を見つけ、学び、主体的に判断・行動し、問題を解決する能力や態度」を向上させ、生きる力の育成と結びつけていく必要がある。

そのために、地域の特性など身近な問題に目を向ける内容で構成し、身近な場における環境保全活動から始め、地域社会等における取組へと発展させるためにも、地域社会との連携を図ることが重要である。

ここがポイント（取組の重点）

◇環境教育で育成する能力や態度をESDで重視する能力や態度を関連付ける。

（1）学校の活動全体を通した環境教育の実施を図る

- ① 各学校の児童生徒や地域の実態を踏まえ、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点と関連させながら身に付けさせたい能力や態度を明確にし、学年に応じた特色を付けたり、重点化を図ったりするなどした学校独自の全体計画を作成する。
- ② 各教科、道徳科、特別活動の目標及び総合的な学習の時間のねらいとの関連を明確にし、教科横断的な視点で年間計画を作成する。
- ③ 児童会・生徒会活動等の活動計画に当り、児童生徒が身近な環境問題や開発問題について考える場を設定し、主体的に取り組めるよう、主に環境の保全に関する内容を位置づける。
- ④ 日常的な取組を継続させるとともに、世界環境デー（6月5日）等を生かした取組を展開する。
- ⑤ 環境教育のねらいを踏まえ、全職員の共通理解のもと、学校の教育活動全体を通して地域の特色を生かした環境教育の充実を図る。

（2）環境に関する指導内容や指導方法を工夫する

- ① 各教科等における環境に係る内容との関連を図るとともに、身近な素材や題材を扱う体験的な学習や児童生徒が体験や経験の中から環境にかかわる問題を見だし、解決に向かう探究的な学習を重視する。
- ② 小学校の低・中学年においては、身近な環境の自然や文化により多く触れる機会を設定し、自然の美しさや大切さなどに気付かせるようにする。
- ③ 小学校の高学年や中学校においては、環境問題に関する具体的な事象を通して、様々な課題を地球規模で考え「今、私ができること」など自らの問題としてとらえさせ、多様な他者との対話とICT等を活用した学びを通して、協働し環境に働きかける実践力を育成する。



（3）家庭・地域社会との連携を図る

- ① 地域の環境や環境問題等を把握し、児童生徒の発達段階に即した地域素材の教材化を図る。
- ② 地域で行われる自然探索やクリーン活動、3R（リデュース・リユース・リサイクル）運動等への参加を促し、家庭や地域に役立つ活動など、実生活との関連を重視した環境教育の充実に努める。
- ③ 地域の人材や企業、消費者センター、リサイクル施設などの社会教育施設等の活用を図る。



■関連資料■

◎『第2次沖縄県環境教育等推進行動計画』	沖縄県環境部	令和5年
◎『おきなわ環境教育プログラム集（学校教育編）』	沖縄県環境部	令和2年
◎『小学生環境読本 おきなわの環境』	沖縄県環境部	平成30年
◎『環境教育指導資料（中学校編）』	国立教育政策研究所	平成28年
◎『環境教育指導資料（幼稚園・小学校編）』	国立教育政策研究所	平成26年

21 環境教育の充実 (高等学校)

－ 環境問題解決の能力及び環境保全に参加する態度の育成 －



生徒一人一人が、本県の豊かな自然環境と併せて、人類社会全体の環境問題やエネルギー問題について関心を持ち、持続可能な社会を実現するための環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境問題解決能力及び環境保全に参加する意欲、態度を育成する。

このため、学校においては、環境教育の推進について全教員の共通理解を図り、生徒の発達段階に応じ、学校の教育活動全体を通して、総合的、組織的、継続的かつ実践的な環境教育の充実を図る必要がある。

ここがポイント(取組の重点)

- SDGsへの関心は高いが、身近な環境問題解決への取組や学びに対する生徒の主体性が課題
- ◇地域や大学等との連携を推進し、多面的な学びの機会の提供を通じた実践的な環境教育の充実を図る。

(1) 環境教育の指導体制の確立を図る

- ① 環境教育は学校の教育活動全体を通して、各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動の有機的な関連を図り、学校や家庭等様々な場で、**生徒、保護者、地域住民、関係機関等が主体的に関わり**、地域づくり、社会貢献活動等の取組を総合的に推進する。
- ② 地域や学校の実態に応じ、**組織的、継続的かつ実践的な環境教育の指導体制の確立**を推進する。
- ③ 沖縄県高校生グリーンデーや世界環境デー等における各学校の取組を推進する。

(2) 環境保全活動に参加する態度や問題解決に資する能力の育成を図る

- ① 野外学習や自然体験学習等の豊かな**体験活動**を行い、本県特有の自然環境や気候、生物多様性に関心を持たせ、環境保全活動に関する意識の高揚を図る。
- ② 教科横断的な指導計画を通して、身近な環境や地球規模の環境問題等の解決に資するため、**豊かな人間性を育み、様々な教科等の見方・考え方を働かせ、主体的に行動し対応する態度の育成**を図る。
- ③ 環境教育研究推進校やモデル校等の研究活動を充実させ、**生徒が身近な自然環境やゴミ問題、エネルギー問題等の社会環境について理解を深め**、持続可能な社会の実現に向けて取り組む資質、能力を育成する。

(3) 環境教育指導資料の活用及び各種環境教育関連の研修会への参加促進を図る

- ① 県教育委員会や文部科学省が作成した指導資料、その他関係機関の諸資料を活用し、**生徒の発達段階に応じて、総合的、組織的、継続的に環境教育の充実**を図る。
- ② 文部科学省、県教育委員会、県立総合教育センター、県環境部等の実施する**環境教育関連の各種研修会へ積極的に参加**し、環境教育に関する実践的な指導力の向上を図る。
- ③ 環境関連の**NPO 法人等による出前講座**の利用を促進する。

■関連資料■

◎ 『科学技術・イノベーション白書』	文部科学省	令和7年
◎ 『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』	環境省	令和7年
◎ 第2次沖縄県環境教育等推進行動計画	沖縄県	令和5年
◎ おきなわ環境教育プログラム集	沖縄県	令和2年
◎ 『高等学校学習指導要領』	文部科学省	平成30年

21 環境教育の充実（特別支援学校）

－身近な環境に目を向け、それを保護・改善していく意欲・態度の育成－



人間と環境とのかかわりについて理解を深め、環境に配慮した生活や行動がとれるようにすることは重要なことである。学校においては、幼児児童生徒の障害の状態や特性、発達の段階に応じ、学校の教育活動全体を通して実践的で体験的な環境教育の推進に努めることが必要である。

「環境教育・環境学習」とは、「『持続可能な社会』の実現のため、『体験を通じて、自ら考え、調べ、学び、そして行動する』というプロセスを重視した教育・学習」のことをいう。（沖縄県環境教育プログラム(小学校編)より抜粋）

身近な環境に目を向け、それを保護・改善していく意欲・態度の育成を目指している。

ここがポイント(取組の重点)

- 教育活動全体を通じた環境教育との関連
- ◇家庭や地域社会と関連した体験的・実践的な活動

(1) 学校の教育活動全体を通じた実践的活動の推進

- ① 環境教育の基本的な考え方を明確にし、全職員の共通理解を図り、**指導体制を確立する**。
- ② 各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習（探究）の時間と**環境教育を関連させ**、環境教育に関する内容を明確にして、それぞれの**年間指導計画に位置付ける**。
- ③ **総合的な学習（探究）の時間**で、自然体験活動や植樹活動、環境に関わる意見発表会等、学校行事の時間に位置付けて取り扱う。
- ④ **特別活動等の計画に環境保全に関する内容を位置付けて**、幼児児童生徒が身近な環境問題に主体的に取り組めるようにする。

(2) 障害の状態や特性等に応じた指導内容や指導方法の工夫

- ① 幼稚部においては、**身近な自然（環境）に直に触れること**を通して、自然に親しみ自然の様々な事象に興味・関心をもたせる。
- ② 小学部においては、**身近な自然や社会環境に触れる機会を多く取り入れ**、環境に対する理解を深める。
- ③ 中学部や高等部においては、**環境問題等を具体的な事象を通して**、理解させるとともに、事象の相互関係の理解や問題解決の能力、**環境保全に寄与する意欲や態度を育てる**。

(3) 家庭・地域社会との連携を図る

- ① 地域のクリーン活動、3R(リデュース, リユース, リサイクル) 運動等の**地域活動への参加**を通して、**実生活との関連を重視した環境教育の充実**に努める。
- ② 地域の人材や地域の企業、消費者センター、リサイクル施設などの**環境学習施設等の活用**を図る。

■ 関連資料 ■

◎『沖縄県環境教育等推進行動計画』	沖縄県環境部	令和5年
◎『沖縄県環境教育プログラム集（学校教育編）』	沖縄県環境部	令和2年
◎『環境教育指導資料（幼稚園 小学校編）』	国立教育政策研究所	平成26年